

目指し、異国で頑張る留学生や学び続ける地域の大学生と直接触れあい、交流することは非常に有意義な経験でした。彼らは生徒たちの良きモデルであり、生徒たちのキャリア観の育成にも繋がるものだと感じました。改めて、宇都宮大学のサポートに感謝申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、留学生や大学生の受入れが困難な状況であります。しかし、一度繋がった交流は今後もぜひ継続していきたいと考えています。一日も早くコロナ禍が終息し、以前のような楽しく活気のある授業を全ての学生・児童生徒が安心して受けられる日が来ることを祈りつつ、今できる最大限の教育活動に最善を尽くしていきたいと思っております。

### 学ボラ派遣に関する関係者の声

#### 「知りたい」と「こたえたい」が出会う場所

宇都宮大学国際学部1年 早川 史花

私は、2015年の8月から、小山市立城東小学校の中にある、外国人児童生徒適応指導教室「かけはし」で、外国人中学生とともに勉強をするボランティアに参加しています。現在、宇都宮大学からのボランティアメンバーは9名で、土曜日の朝9時から11時半頃まで活動しています。日課は、40分間の授業を3回おこなうという構成で、勉強する教科は生徒本人が選択し、内容は定期試験、高校入試、宿題、先生(ボランティアメンバー)のお任せなど様々です。

その日の参加人数にもよりますが、基本的に一人の生徒に対して先生一人が教えます。また、生徒と先生の組み合わせは固定されていないので、生徒は先生全員と関わることができるのと同時に、ボランティアメンバーもすべての生徒に関わることができます。私は、授業中に生徒から伝わってくる、「わからない」、「知りたい」という気持ちと、それにこたえようというボランティアメンバーが醸し出す雰囲気大好きです。

私が、このボランティアに参加することになった経緯を説明します。大学に入学して数カ月経ち、「ボランティアに参加してみたい」と考えていた私は、いつも学内の掲示物に目を光らせていました。するとある日、掲示物の中に母校の小山城東小学校の文字を見つけたのです。私はすぐに、「参加してみたい」という気持ちになりました。ポスターに書いてあった、活動内容の説明の中の、「外国人生徒」という言葉から、私は思い出したことがありました。

小山市で育った私の小中学生時代は、同級生にいつも外国人がいました。かれらの中には、学校での生活は大変だっ

たろうな、と思いつける人が何人もいました。なぜなら、「違う」ということを敏感に意識する時期に、外国人生徒たちに向けた、私たち日本人のまなざしや言動は、容赦のないものだったと思うからでした。そんなかれらの事を思い出すほどに、申し訳ない気持ちを感じるとともに、この活動の重要性を強く感じました。私は、ポスターを発見したその足で、担当の若林先生の研究室を訪ね、お話を聞き、その場でボランティアに申し込んだのです。

毎回の活動を通して、生徒と一対一で勉強することにより、一人一人がどんな生徒なのかを知ることが出来ます。同時に、質問に分かりやすく答えられない自分を情けなく思いつながらも、その時に一番良いと考えた方法で、生徒たちと勉強してきます。その日のボランティアが終わったあとは、来週のために、生徒にとってさらに良い教え方を考えます。しかし、何が正解か分からないのも現実です。

これまで、約半年の経験の中で、私は、外国人生徒と勉強するときに大切だと感じることを見つけました。まず、「生徒が何を分かっている、何を分かっているか把握すること」。次に、「漢字の読み方や言葉の意味を丁寧に説明すること」。そして、「どうしたら生徒がもっと勉強をする気になるかを考えること」の三つです。これらは、生徒が知りたいことを勘違いしたまま授業を進め、しばらくしてその勘違いに気づき、授業の時間を無駄にしてしまったという失敗や、言葉の意味が分からなければ問題も理解できないという当たり前の事実、そして、生徒の学力は最終的には生徒自身の努力次第であることに気づいたことから得られました。これからは、さらに多くのことを学び自分の能力を高め、少しでも生徒の役に立てよう努力したいと考えています。

この活動は、一人でも多くの外国人の子どもが、高校に進学することが出来ることを願っておこなわれています。学歴が重視されるこの社会で生きていくために、高校に進学することはとても重要です。このボランティアを必要とする一人でも多くの生徒たちが、この教室に来てくれることを願っています。また、同時に、先生となるボランティアメンバーが増えることも願っています。

●HANDSnext vol.21 (2016年2月15日)

#### 学生ボランティアを受け入れて

宇都宮市立東小学校教務主任 村岡 裕之

黄佳蓓さんには、4年生の男児の支援をしていただいています。男児は、4月に来日するまで日本語や日本の生活習慣等に触れたことが全くなく、学校生活の上でさまざまな支障をきたしていました。

黄さんは、朝の会から教室に行きます。椅子は男児の席の隣にあります。教室では、担任の言葉をわかりやすく伝えたり、発表を促したり、考えるヒントを出したりするなどの支援をしています。休み時間も子どもたちと一緒に過ごし、遊びのルールなどを教えています。給食の時間も男児のグループに入り、会話の橋渡しをしたり、食事のマナーを教えたりしています。

黄さんの支援を受ける前は、男児は日本語ができないために学習面で十分に力を発揮できなかったり、時折意欲を失ったりするようなことがありました。また、友達とのコミュニケーションがうまくとれず、トラブルになったこともありました。

支援を受けるようになってからは、学習面での意欲も見られるようになり、友達との関係も良好になっています。何よりも男児の気持ちに寄り添い、よくできた時は共に喜び、悪いことをした時には厳しく叱る姿勢がとても素晴らしいです。学校としても黄さんに来ていただいていることに感謝しています。

●HANDSnext vol.3 (2010年11月25日)

#### 学生ボランティアを受け入れて

佐野市立城東中学校日本語教室担当 野村 智子

本校は、外国人児童生徒教育拠点校に指定されています。現在、6ヶ国12名の外国籍生徒が在籍しています。その生徒の多くは、学力面で悩みを抱え、支援を必要としています。

そのような中、宇都宮大学HANDS プロジェクトの事業の一環として、学生ボランティアを派遣しているという情報を得ました。早速依頼しましたところ、戸部さんが毎週金曜日の午後に来てくれることになりました。対応がとても早く、また、学校の事情をよく理解して、適切な学生さんを派遣していただきました。

戸部さんには、Aさんの数学の学習を見ていただいています。Aさんは、現在までのところ学習への意欲があまり認められない生徒です。戸部さんも頭を抱えているようですが、何かと工夫を凝らして、指導に当たっていただいています。しかし、その努力も徒労に終わってしまうこともあるようです。

「今日は話だけで終わってしまいました」とか、「数学はやりたくないと言われてしまいました」とか、戸部さんが話してくれますが、戸部さんを悩ませている様子です。

そんなAさんですが、毎週金曜日の戸部さんの来校をととても楽しみにしているようです。熱意を持って接して下さる戸部さんにはとても感謝しています。これからも学生ボランティアを大いに活用し、生徒の学習意欲の向上の

ために一助となつていただくようお願いするつもりです。

●HANDSnext vol.4 (2011年3月4日)

#### 学生ボランティアを受け入れて

益子町立益子中学校 那花 幸子

昨年の夏休み、急に中国籍の男子生徒を受け入れることになりました。転入前の中学校には外国籍の生徒のための教室があり、週に数時間、そこで勉強をしていたそうです。しかし、本校ではそういった教室はなく、普通学級で対応できるかどうか心配でした。

本人の明るく社交的な性格もあり、ことばの壁はあるものの、周囲の生徒とは打ち解けて生活できるようになりましたが、数学・英語以外の授業は解らないということでした。

何か支援の方法はないかと悩んでいたところ、宇都宮大学HANDSプロジェクトの案内が目にとまり、学生ボランティア派遣をお願いしました。交通手段等の問題がありましたが、大学側で配慮をしてくださり、大城さんが週に2時間、個別に指導をしてくれることになりました。

大城さんには、1時間はテキストを使って日本語の学習を、もう1時間は授業で解らないところの解説(社会)をお願いしました。中国語が堪能な大城さんに男子生徒もすぐに打ち解け、安心して学習に臨めたようです。やさしく丁寧に指導してくださり、日本語のテキストは3か月くらいでマスターできました。男子生徒は、県立高校への進学を希望しており、来日したのが小学6年の12月のため、特例措置の入試を受けることができません。今後も学生ボランティアの方の力をお借りして、学習意欲の高い本人へのできる限りの学習支援をしたいと思っております。

●HANDSnext vol.5 (2011年6月24日)

#### 学生ボランティアを受け入れて

栃木市立南小学校 教務主任 川俣 真理子

本校には現在、ペルー、バングラデシュ、韓国等11名の外国人児童が在籍しています。国際学部の海野さんにはこの事業が始まった昨年10月から、教育学部の戸井田さんには昨年12月から週1回程度、本校に来ていただいています。

海野さんは、6名の外国人児童が在籍する5年生の2クラスへ交代で入ってもらい、昼休みの共遊や5校時の学習支援、放課後の個別支援学習をお願いしています。明るく元気いっぱい、若さあふれる海野さんに友達とのトラブルや悩みなどを相談する児童もいて、心の面でもサポートしていただいています。

戸井田さんには、3年生のA児(ペルー国籍)のいるクラ

スへ入ってもらい、5校時の学習支援や放課後の個別学習支援をお願いしています。A児は日常会話にはほとんど困りませんが、教科学習になると文章を読んで考えることなど十分に力を発揮できなかったり学習意欲を失ったりします。また、友達とのコミュニケーションがうまくとれずトラブルになったこともあります。優しくA児に寄り添いよくできたときにはほめてもらうので、A児も満足そうです。戸井田さんは本校の卒業生ということもあり学区内にお住まいなので、児童と一緒に下校して下さることもあり、大変助かっています。

今後も学生ボランティアの方の力をお借りできればありがたいです。

●HANDSnext vol.7(2011年11月21日)

### 学生ボランティアを受け入れて

矢板市立片岡小学校 教諭 見目 治美

本校は昨年度も学生ボランティアを受け入れており、学習指導に非常に有効であったと聞き、今年度もお願いすることになりました。

本校には、日本語の理解が不十分な児童や学習支援を必要とする児童がいて、手厚い支援を必要としており、本年度は3名のボランティアを派遣していただきました。

週1回、阿見さん(教育学部)には4~6年の算数を、松田さん(国際学部)にはタガログ語を交えて1,5年児を、小向さん(国際学部)にはスペイン語を交えて1,3年児の学習支援に入っていました。

松田さんは、算数の支援で既習事項の習得が不十分な5年の男児に十分な理解をさせたいと、個別支援を申し出ていただきました。担任と話し合い、男児だけではなく、学習支援を必要としている児童も見てください、大変助かっています。

小向さんには、日本語がほとんど理解できていない1年の女児に途中から日本語学習を中心に個別指導をお願いしました。小向さんは、コミュニケーションをとるために、一緒に給食を食べたこともあり、女児も小向さんを頼るようになっていきました。

学生ボランティアをお願いして、一人一人に合った支援が行えたことだけでなく、学生自らがその子のために必要だと思ったことを進んで行っていただいたことに大変感謝しています。来年もさらに多くの学生の力をお借りできればと思っています。

●HANDSnext vol.8(2012年2月20日)

### 学生ボランティアに感謝

宇都宮市立西原小学校教諭 江部 まり子

昨年11月に、フィリピン児童のA児が私のクラスに編入してきました。最低限の日常会話は日本語でできるのですが、授業中の指示や学習内容がどの程度理解できるのか、不安なまま毎日を過ごしていました。今思い返すと、A児の方が私の数倍不安だったことと思います。

そのような中、宇都宮大学で外国人児童生徒教育支援として学生ボランティアを派遣しているという情報を得、依頼しましたところ、早速、英語とタガログ語が堪能な岩村恵さんが毎週水曜日に来てくれることになりました。

初対面の時は緊張している様子のA児でしたが、岩村さんの優しく温かな言葉かけに、A児もすぐに心を開き、笑顔で学習に取り組めるようになりました。岩村さんとA児は、言葉が通じただけではなく、心まで通っているように私には見えました。

学年末には、漢字や文章の読み取り、算数の文章題については満点近くの成績を取めることができるようになり、進んで発言できるくらい自信を持って学習に取り組めるようになりました。また、保護者への対応についても、授業参観での母親との情報交換や学校からのお便りの英訳までしていただき、本当に助かりました。

今年度も引き続き、週1回来ていただけることになり、私もA児も岩村さんに会えるのを毎週楽しみにしています。いつも子どもたちへの愛情と仕事への熱意をひしひしと感ずることが出来る岩村さん。近い将来、素晴らしい先生になられることを期待しています。たいへんお世話になり、本当にありがとうございます。



●HANDSnext vol.9(2012年6月22日)

### 温かな支援ありがとうございます

宇都宮市立陽東小学校教諭 宇賀神 玲子

本校は、宇都宮大学から距離的に近いということもあり、様々な機会に宇都宮大学の支援をいただいています。

今年度の学生支援ボランティアとしては、支援を要する児童のクラスに入らせていただいている学生さんのほかに、中国から来た児童の指導に入らせていただいている呂卉さんのお二人にお世話になっています。

お二人とも、いつもとびきりの笑顔で職員室にご挨拶に来てくださり、「勝手知ったる陽東小」という感じで、担当の私がいなくてもてきぱきと判断して子どもたちのところに行き、自然なかたちで支援に入ってくださいます。

呂卉さんは、昨年度から引き続いて、中国から来た5年生児童S君の学習指導を手伝ってくださっています。最初は日本語で自分の気持ちをうまく伝えられないS君の悩みを聞いてくださったり、中国と日本の学習習慣の違いなどを担任に教えてくださったり、児童のみならず担任もずいぶん助けていただきました。

弟を思う姉のような優しさの中にも、「やるべきことはしっかりやろうね」という熱い思いをもって指導に当たってくださいます。

支援ボランティア学生の方の子どもを思う熱心で真摯な姿勢に触れる度に、私たち教職員も初心に戻る思いがします。これからも子どもたちの笑顔のために、私たちに力を貸していただけたらとても幸せに思います。

●HANDSnext vol.10(2012年9月3日)

### 学生ボランティアの支援があったからこそ

栃木市立栃木中央小学校教諭 花田 としか

本校には、1年生の2学期に中央アメリカから編入してきたA児がいます。現在は2年生になり、在籍学級で楽しく学校生活を送っています。これも学生ボランティアの支援があったからこそだと感謝しています。

A児は人懐っこく、クラスにもすぐ溶け込みましたが、学習面や集団生活の約束の理解の面で本人も担任としても戸惑うことが多かったです。そんなとき、学生ボランティアについて知り、昨年10月より糸川さんに週1回来ていただき、学習や生活面での個別指導をお願いしました。糸川さんは、常に「A児にとって、より効果的な支援は何か」という視点を持って活動に当たってくださいました。

A児にとっては、自分の思いをすぐそばにいて受け止め、対応してくれる糸川さんの存在が大きく、安心して学校生活に臨める支えとなりました。担任として、安心できる環境づくりを一緒に行ってくださいましたことに心から感謝いたします。

●HANDSnext vol.14(2013年9月2日)

### 温かな支援に感謝

鹿沼市立東中学校教諭 廣田 美佳子

今年の4月、中国から来日したAさんが本校に入学しました。周囲の子も中学校に入学したばかりで、教えてあげられる事も少なく、Aさんもなかなか生活のリズムが作れない状態でした。物を指し示したり、単語でゆっくり言ったりしてみても、うまく伝わりにくいこともあり、焦りも感じていました。こちらがそんな気持ちだったということは、本人はもっと不安な毎日を過ごしていたと思います。

そのような時に、宇都宮大学HANDSプロジェクトの存在を知りました。ぜひお願いしたいと連絡した結果、鄭思宇先生に来ていただけることになりました。

Aさんは、初対面の時こそ緊張の表情も見られましたが、中国語で話せることに安心したのでしょうか。すぐに、にこにこ学習に取り組めるようになりました。初めての校内定期テストのやり方や、分かりにくい日本語の意味など、日常生活ですぐに役立つことを中心に、言葉の学習をしています。保護者もこのプロジェクトをありがたいと理解していただき、本人も「単語の使い方がわかるようになった」とか「分からない言葉を、中国語でやりとりしてからもう一度日本語で教えてくれるのでわかりやすく、楽しい」ととても意欲的です。

宇都宮大学HANDSプロジェクトのみなさん、とても丁寧で、誠意をもって接してくれる鄭先生。本当にたくさん助けていただきありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。



●HANDSnext vol.15(2013年11月11日)

### สวัสดีค่ะ

真岡市立真岡小学校教諭 村上 敬子

突然ですが、タイトルの文字、何語で何と書かれているでしょう。お分かりになる方は、学習経験や興味関心がお

ありの方かと思えます。タイ語で「こんにちは。」(女性形)と書かれています。

4年生で来日するまでこのような文字で読み書きし、生活していた現在6年生のNさん。初めてひらがな、漢字等を見たとき、そして、それらを使って生活し学習しなければならなくなったときの気持ちは、私たちが想像する以上のことだったと思えます。本校には外国籍を有する児童は40名余りいますが、タイ国籍はNさんのみです。明るい性格で友だちとも積極的に交わり、寂しそうな素振りも見せず日本語もみるみるうちに上達したNさんですが、自分の国に興味・関心があり、タイ語を話せる藤巻優美さんに出会ったときのうれしさ、心強さも計り知れなかったことでしょう。初日のNさんの表情は今でも鮮明に思い出されます。藤巻さんと過ごした時間は、Nさんの小学校生活のすばらしい思い出になったことと思います。遠路お越しいただき何のお礼もできずに恐縮している私たちに「とてもよい経験をさせていただきました」という、藤巻さんの言葉と笑顔には頭が下がる思いです。このようなボランティア支援をいただきまして本当にありがとうございました。



●HANDSnext vol.16(2014年2月14日)

### Yくんの母語を生かした学習支援について

大学院国際学研究科2年 耿 蘭竺

Yくんの母語を生かした学習支援を始めたのは昨年の5月からです。12月まで約7か月間に週に1回、Yくんがいる県内の小学校に行って学習支援を行いました。学習支援の対象となるYくんは現在小学校5年生で、今回の学習支援が始まった時は日本語の日常会話には特に問題はないが、教科学習が難しいという状況でした。特に、書くことに大きな抵抗がありました。一般に、日本語指導が必要な子どもに対する支援は日本語で行うのが多いと思えます。しかし言語形成期にいる子どもにとっては、持っている母語力を維持あるいは伸長しないと、日本語がまだ十分に習得していないうちに、母語を忘れてしまい、思考言語を

喪失する状況に陥る可能性が高いです。なので、今回の学習支援はYくんの母語、中国語を活用しながら、教科学習についていけるようになることを主な目的にしました。以下、各時期の支援実態を紹介します。

1学期目のより高い日本語力が必要とされる社会と国語は取り出しで、他の教科は入り込みで学習支援を行いました。始まったばかりの時、学習支援がうまくいかなかった時が多かったです。一番難しいと感じたのは、授業中に先生が言っている内容に対してはどこがわからないのか、なぜわからないのかなどの把握です。言語の問題なのか、学力の問題なのか、それとも両方なのか。その判断にとても時間がかかりました。1学期目が終わったところ、Yくんは取り出し学習支援に少し慣れてきた様子に見えました。夏休みの1ヶ月間を利用して、宿題をもとにして1学期目のポイントの教科内容をテレビ電話で学習支援を続けました。週に2回、毎回1時間くらいをかけて、Yくんが理解することが難しい内容に対しては母語で説明した上で、わかるようになったら、対応する日本語を教えるというやり方を取っていました。またわかる内容をYくんに自分の言葉で説明させることを通して、内容を十分に理解できているかどうかの判断もできます。Yくん本人も自分で説明できるようになったことにとても嬉しい様子に見えました。

2学期目に入って、Yくんは母語での学習支援のほか、日本語指導も受けるようになりました。内容は主に日本語基礎です。母語で教科学習を中心にして支援を行いました。1対1で細かく説明や確認ができるので、算数と理科も取り出し支援でやることになりました。Yくんは1学期目と比べ、勉強意欲が高くなり、書くことに対する抵抗も減ってきたように見えました。

母語を活用した学習支援において課題はまだたくさんありますが、今回7ヶ月間の学習支援を通して母語の力を借りて、子どもの教科内容の理解にプラスの影響があることがわかりました。しかし外国人散在地域での母語保持・伸長は簡単なことではないので、母語支援者、学校、保護者との連携体制の構築の重要性を感じました。またこれから日本語習得や教科学習においては母語の役割や活用の必要性が広く認識されるべきではないかと考えます。

●HANDSnext vol.25(2020年3月13日)



## 支援会議、『教員必携』、だいじょうぶnet